
倉敷市第七次総合計画

〈は じ め に〉

1 総合計画策定の趣旨

総合計画は、倉敷市のめざす将来像とその実現に向けた施策を表したもので、まちづくりの指針となる市の最上位計画です。昭和45年以来、これまで六次にわたり計画を策定し、まちづくりの施策を進めてきました。

そしてこれからも、出生率の低下による人口減少、東京圏への一極集中、頻発・激甚化する自然災害や新たな感染症のまん延など、私たちを取り巻く環境の変化への対応や、様々な脅威から暮らしを守ることに加え、平成30年7月豪雨災害からの一日も早い復興をはじめとした様々な施策に取り組み、活力ある未来へと繋げていかなければなりません。

そこで、第七次総合計画は、多くの市民の皆さまの意見を集約した前計画を基礎としながら、人口減少社会における市の活性化をめざす地方創生の視点や、災害への備えの強化、持続可能な開発目標であるSDGsの理念を踏まえ、倉敷市の新たなまちづくりの指針として策定しました。

2 総合計画の特色

第七次総合計画は、次の4つの特色を有しています。

(1) 「将来像」と「めざすまちの姿」の実現に向けてわかりやすい総合計画

子どもから高齢の方までどの世代にも望まれるような、倉敷市のめざす将来像とめざすまちの姿を示し、市民、企業、団体、行政などが、その実現に向けた目標や取組を共有できるよう、わかりやすさを重視しました。

(2) 市民の声を活かす総合計画

多くの市民の皆さまの意見を集約した第六次総合計画を基礎としながら、さらに市民アンケートや高校生・大学生など若い世代に向けた調査を行い、幅広く市民の声を活かした計画づくりに努めました。

(3) 「倉敷みらい創生戦略」を組み込んだ総合計画

東京圏一極集中を是正し、人口減少に歯止めをかけることをめざす倉敷みらい創生戦略を組み込むことにより、将来にわたって活力ある地域社会の実現に重点的に取り組む計画としました。

(4) SDGsの理念を取り入れた総合計画

SDGs（エス・ディー・ジーズ）は、世界の課題を皆で解決し、将来へと続くより良い世界をめざすため、平成27年の国連サミットで採択されました。倉敷市は、SDGsの達成に向け優れた取組を行う都市として、令和2年7月に「SDGs未来都市」に選定されており、第七次総合計画はこの世界目標につながる計画として策定しました。

3 総合計画の構成及び期間

(1) 構成

① 基本構想

基本構想は、倉敷市のめざす将来像を掲げるとともに、めざすまちの姿を示し、まちづくりの方向性を明らかにしています。

② 基本計画

基本計画は、基本構想を具体化し、目標を実現するために必要な市の施策、基本方針やまちづくり指標を明らかにするものです。また、基本計画のうち地方創生に関する取組については、倉敷みらい創生戦略の計画としても位置づけています。

③ 倉敷みらい創生戦略

人口減少社会を踏まえて市の活性化をめざす地方創生に関する取組については、該当する総合計画の基本方針やまちづくり指標を抽出し、4つの基本目標に沿って整理しています。

④ 実施計画

基本計画に掲げる、市の施策や基本方針に沿った取組及び事業を整理してまとめた計画です。このうち、地方創生に関するものは、倉敷みらい創生戦略における取組や事業としても位置づけています。

(2) 期間

基本構想及び基本計画の期間は、令和3年度から令和12年度までの10年間とします。実施計画は、令和12年度までの期間、ローリング方式により毎年度見直しを行います。

4 市政運営に大きく影響する社会的要因

(1) 豪雨災害からの復興と自然災害への備え

平成30年7月豪雨災害で被災された皆様が、一日も早く安心して落ち着いた生活を取り戻せるよう、真備地区の復興を強力に進め、復興が成し遂げられた後も、すべての市民が安全・安心な暮らしを続けられるよう、災害に強いまちづくりを進めていくことが大きなテーマとなっています。

(2) 新たな感染症からの危機克服

新たな感染症の流行は、人々の生命や生活だけでなく、経済や社会活動にも大きな影響を与えます。倉敷市においても、新しい生活様式の普及や、デジタル化の推進等による感染拡大防止に取り組むとともに、雇用・事業・生活等への支援を行い、社会経済活動を守り抜くことが重要となります。

(3) グローバル化と増加する外国人への対応

外国人観光客の増加は大きな経済効果を生み出すため、わが国では令和12年に訪日客数6,000万人を目標にしています。また、地域においては、様々な文化を受け入れ、外国人観光客をはじめとする交流人口を増やすとともに、地域で暮らす外国人が地域の担い手となるよう相互の理解に努め、多文化共生の取組を進めていく必要があります。

(4) 持続可能なまちづくり（インフラ・公共施設の老朽化）

高度経済成長期以降に整備された道路橋、トンネル、河川管理施設、下水道管きよ、港湾岸壁など、今後、建設後50年以上経過する施設の割合が急速に高くなります。行財政改革を進めつつ、老朽化が進む公共施設を計画的に維持管理・更新することにより、市民の安全・安心の確保や経費の縮減・平準化等を図る、公共施設マネジメントに関する取組を進めていくことが必要です。

(5) 地域の課題解決につながるSociety5.0の実現

Society（ソサエティ）5.0とは、IoT（モノのインターネット）やロボット、AI（人工知能）などの先端技術を活用し、仮想空間と現実空間をつなぎ、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会のことです。このSociety5.0の社会では、ワーク・ライフ・バランスの改善、誰もが働きやすい環境づくりの進展、少子高齢化や貧富の格差などが克服され、希望のもてる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人ひとりが快適で活躍できる社会になるとされており、わが国はその実現をめざしています。

5 将来人口の見通し

倉敷市の人口は、平成28年の484,056人をピークに減少が続いており、令和元年に行った将来推計では、令和27年には442,676人になる見込みです。人口減少の局面においては、年齢による3区分の構成比の変化も注視すべきで、平成元（1989）年から将来推計による令和27（2045）年への変化は、次のとおりです。

年少人口（14歳以下）の割合	19.7%	→	11.5%	（8.2ポイント減）
生産年齢人口（15～64歳）の割合	69.3%	→	53.4%	（15.9ポイント減）
老年人口（65歳以上）の割合	11.0%	→	35.0%	（24.0ポイント増）

これは、経済の生産活動を主に支える世代とその先を担う年少世代が縮小していくということであり、倉敷市の将来人口を先細りさせる構成に近づくことを示しています。

〈基本構想〉

1 倉敷市のめざす将来像

倉敷市は、繊維産業をはじめとする、ものづくりのまちとして発展してきました。そして、高梁川や海の恵みが暮らしを豊かにし、そこで紡がれた歴史や文化が観光客を誘い、賑わいを創っています。こうした財産を次の世代に繋げていくことが、今を生きる私たちの役割です。一方で、自然は時に牙をむき、平成30年7月豪雨では真備地区が大きな被害を受けました。また、今、少子高齢化によって日本の人口は減少し、地方の衰退が危惧されています。私たちは災害の備えを強化し、先端技術を活用しながら様々な困難を克服していかなければなりません。しかし、これからも大切なことは、人と人との絆や地域の結びつき、相手を慈しむ心であり、それが豊かな地域を築いていくと考え、倉敷市のめざす将来像を「豊かな自然と 紡がれた歴史・文化を 次代へ繋ぎ 人と人との絆と慈しみの心で 地域を結ぶまち倉敷」としています。

2 44のめざすまちの姿

倉敷市のまちづくりの方向性を44のめざすまちの姿として示し、5つの分野にまとめました。

1 子ども・子育て・教育 〈慈（いつくしむ）〉

① だれもがその人らしさ（個性）を尊重され、幸せに暮らしていくことができている
② 人の痛みを、子どもたちが実感としてわかっている
③ 教員の資質が保たれ、教員と子どもが心豊かな人間関係を築き、学校教育が充実している
④ 子どもたちが自然にふれながら、健やかに育っている
⑤ 安心できる環境のもとで出産・子育てができている
⑥ 仕事と家庭の両立ができ、親が子どもとふれあう時間をもつことができている
⑦ 学校・園、地域、家庭が連携して、子どもたちが困窮することなく、安心して学び、成長できる環境となっている
⑧ 障がいの有無にかかわらず、等しく保育・教育を受けることができている
⑨ 興味があることを、だれもが、気軽に学ぶことができている

2 文化・産業 〈紡（つむぐ）〉

① 生活の中に個性的で魅力的な文化芸術が息づいている
② 世代を超えて受け継がれてきた歴史文化や伝統が大切に継承され、輝いている
③ 生活の中で、日常的かつ気軽にスポーツに親しむことができている
④ 心に充足感やゆとりをもち、家庭と仕事の調和がとれている
⑤ 産業競争力が高く、多様な人材が働く機会に恵まれ、将来の暮らしに希望をもつことができている
⑥ 商業の活性化が地域に活力を生み、時代の流れに対応したビジネスの創出や起業が進んでいる
⑦ 将来にわたり持続可能な魅力ある農業や漁業が営まれている
⑧ 倉敷の魅力を国内外にPRし、たくさんの人が訪れるようになっている

3 生活環境・防災・都市基盤 〈繫（つなぐ）〉

① 自然環境が守られ、環境と経済・社会とのバランスが保たれている
② 水と空気と大地がきれい、環境負荷の少ないまちがつくられている
③ リデュース（ごみの発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（ごみの再生利用）が徹底され、環境に配慮した循環型社会が形成されている
④ 脱炭素社会の実現に向け、だれもが地球温暖化対策を推進している
⑤ 行政と市民、企業などが連携し、防災・減災対策や感染症対策などを積極的に進めるとともに、だれもが命を守る意識をもっている
⑥ 常に安全でおいしい水が届き、安心して暮らすことができている
⑦ だれもが安全で快適に移動できる道路環境となっている
⑧ 市中心部の拠点性が高まるとともに、各地域・地区の中心部の利便性が向上するまちづくりが行われている
⑨ 便利に公共交通が利用でき、その周辺に住まいや生活に必要な施設が集まっている
⑩ 地域の特色が活かされ、自然と調和した、だれもが住みやすい生活環境となっている
⑪ 先人から受け継いだ歴史的・魅力的な景観が、市内各地で守られている
⑫ 犯罪が少なく、安心して暮らしている

4 保健・医療・福祉 〈結（むすぶ）〉

① だれもが自分の健康に関心を持ち、健康づくりに自ら取り組んでいる
② 豊かな自然の恵みにより食べ物がおいしく、健全な食生活が実現されている
③ 市内のどこに住んでいても、だれもが安心して、医療を受けられている
④ 障がい者が積極的に社会参加でき、地域の人と安心してともに暮らせるようになっている
⑤ 様々な事情により困窮している人が、自立できるよう地域で支え合っている
⑥ 高齢者が地域で安心して暮らすことができている
⑦ 尊厳が守られながら必要な介護サービスを受けることができている
⑧ 高齢者が生きがいをもって活動している

5 SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政 〈絆（きずな）〉

① 地域やコミュニティの中で、だれもが互いに助け合い、支え合って暮らしている
② ボランティア・NPOなどの市民主体の活動が活発に行われている
③ 行政が市民の意見を踏まえ、施策の検討、効果的な実施、評価・検証を行い、改善を図っている
④ 市民が安全で快適に、公共施設を利用している
⑤ 市役所が市民の身近な窓口として課題解決に向けて責任をもって対応している
⑥ だれもが快適で活力に満ちた生活ができるよう、先端技術が生活に溶けこんでいる
⑦ 持続可能な地域をめざすSDGsの理念を、だれもが理解し、行動している